

「需要に応じた米づくり」生産者集会

当JAは3月26日(日)、グリーンパークで「需要に応じた米づくり」生産者集会を開きました。200人を超える市内の生産者らが参加しました。当JAの谷口熊一組合長は魚沼米憲章の遵守、整粒歩合の向上、魚沼米コシを主力としながらの業務用米への取組などを呼び掛けました。当日は、「今後の米生産・販売の方向について」と題して全農パールライス(株)東日本事業本部の森下浩文営業開



▶生産者へ取組を呼び掛ける
谷口組合長

発部長が講演をおこなった他、JA全農にいがた米穀部の澤栗晋課長が米穀の情勢報告、県農業普及センターの門倉綾子主査が平成29年産米の品質向上に向けたポイントを解説した。この集会は、卸などの実需者から求められている米を生産者が認識し、生産者と販売を結びつけ、平成30年以降も計画生産による需要に応じた米の生産をおこなうことを目的として開かれました。



▶米生産・販売について講演
をおこなう森下部長

JAグループ新潟 新潟米推進集会



▶計画生産を呼び掛ける今井会長

JA新潟中央会とJA新潟県農対本部は3月3日(金)、新潟市の新潟テルサで「需要に応じた新潟米推進集会」を開きました。県内の農業者やJAの役員など1300人が集まりました。平成30年産米の取組として、水田フル活用の推進、新潟米のシェア拡大、マーケティングに基づく取組の強化などを掲げ意思結集を図りました。

JA新潟中央会の今井長



▶ガンバロー三唱をおこなう生産者

司会長は「平成30年以降は、作りたいだけ米を作れるようになる」といった誤解があるとすれば、払拭しなければならぬ。計画生産は引き続き大切」と訴えました。

集会では農事組合法人みどりの田んぼ(三条市)が「あきたわら」生産の取組を紹介した他、全農パールライスの大貝浩平社長や新潟大学の伊藤亮司助教授らが講演をおこないました。

4月
開院

『JA新潟厚生連 小千谷総合病院』病院長あいさつ



JA新潟厚生連
小千谷総合病院

病院長 高橋 達

ていま
す。ま
た高度
成長期
から低

JA新潟厚生連小千谷総合病院はJA新潟厚生連魚沼病院と公益財団法人小千谷総合病院が統合して平成29年4月1日に誕生した新しい病院です。約2年余りの歳月をかけて小千谷市平沢新田の約5万1千平米の土地に地上6階建て300床を有する新しい病院として建設されました。約900台の車が駐車できる

駐車場を有し、ドクターヘリの離発着場となる小千谷市車両センターが隣接しています。

我が国において進行する少子高齢化は小千谷市を中心とする当地域においてもその例外ではなく、人口減少対策が大きな課題となっ

成長時代へと社会が移行するにつれて、社会の様々な分野でのダウンサイジングが求められる中、ともに小千谷市にあって独自の歴史と文化を作り上げてきた二つの病院が統合して医療機能と医師数を充実させ、新しい病院として再出発しようとする機運の中から誕生したのが新しい小千谷総合病院です。

当院は小千谷市ならびに隣接諸地域を主な診療圏として、住民の皆様の安心、安全な医療の拠点としての役割を果たすと同時に、当院の医療機能のみでは対応が難しい高度、あるいは専門的な治療を要する疾患の場合には長岡市にある同系

列のJA新潟厚生連長岡中央総合病院、あるいは長岡赤十字病院、立川総合病院、さらには南魚沼市にあります魚沼基幹病院などの急性期病院群と密接な地域医療連携を構築することにより、急性期の高度かつ専門的な医療から慢性期、回復期、リハビリテーション、そして在宅や施設への橋渡しに至るまでをトータルに診療できるように職員一同が精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



▶新病院を見て回る市民

新小千谷総合病院 市民向け内覧会開く

「JA新潟厚生連 小千谷総合病院」は4月1日開院しました。

開院にさきがけ、同病院は3月18日(土)市民向けの内覧会を開きました。小千谷市や周辺地区の住民約2,000人が同病院を訪れました。同病院の職員から施設の説明を受けながら院内を回り、病棟や生活習慣病予防治療、人工透析、リハビリテーションなどの施設を確認しました。病棟の4床室では、ベッドごとに専用の窓を設け、細部まで配慮がなされています。内覧会に訪れた市民は「新しい病院ができてうれしい。何かがあったときは、安心して通院や入院することができると感想を話しました。」